

【第1号】

平成27年3月4日

福島県小名浜港湾建設事務所 おなはまみなと通信



小名浜港湾建設事務所では、いわき市内のみなとの整備、管理及び運営を行っています。
「おなはまみなと通信」では、小名浜港を始めとしたいわき市内の港湾・漁港の復旧・復興状況や話題などみなとに関する情報を発信します。※おなはまみなと通信は、当事務所のホームページからもご覧いただけます。

創刊号 小名浜港湾建設事務所とは

はじめまして
普段の生活の中でみなとのことについて知る機会はなかなか無いと思います。

そんなあまり馴染みのないみなとについて、興味をもって頂けるように、この広報誌では、みなとに関する情報を発信していきます。



小名浜港



いわき市内の港湾・漁港の管理を行っています。

◆どんな仕事をしているの？

いわき市内の9つの港湾・漁港の整備、管理及び運営を行っています。

◆具体的な仕事はどんなものがあるの？

1 整備

- ・波浪から港内を守るための防波堤や船舶を泊めるための施設である岸壁などを整備します。
- ・東日本大震災で被災した防波堤や岸壁などの港湾施設や海岸堤防などの復旧工事を行っています。

2 管理

- ・老朽化した施設の維持補修を行っています。
- ・みなとの施設を良い状態に保つため、みなとのパトロールを陸と海から行っています。
- ・「海上における人命の安全のための国際条約（SOLAS条約）」及び「国際船舶・港湾保安法」に基づき、ふ頭に立入制限区域を設けて、人・車両・貨物などの出入を管理しています。

3 運営

- ・係留船舶の調整や船舶を留める許可を出しています。
- ・ポートセールス（荷主企業などの訪問やセミナーなどを開催し、みなとのPRを行い、港の利用促進を図ること）を実施しています。

◎みなとの役割

①物流拠点：石炭などのエネルギー資源や食料品の輸入、工業製品の輸出などの貿易の拠点として、国民生活や日本経済を支えています。

②漁業拠点：漁獲物の陸揚げの場、流通加工の基地として、漁業を支えています。

③交流拠点：港やその周辺にある、自然と親しめる公園や海について学べる施設などのレクリエーション施設は、交流の拠点として人々の生活を支えています。



第1回 応援職員さんにインタビュー

当事務所には、震災の復興応援のために他県から応援職員が派遣されています。

今回は、広島県から派遣された西尾幸士さんにインタビューをしました。西尾さんは、四倉漁港の被災した施設の復旧工事、漁港内に堤防を新設する工事を担当しています。



防波堤の復旧工事を行っています。



地盤沈下ですれた岸壁の復旧を行っています。



約 70cm 沈下しました。

波を消して海岸などを護るためのコンクリートブロックを置きます。



重さはなんと 50 トン！
高さは 4m を超えます!!

道の駅
よつくら港

広島県

西尾幸士さんのおすすめ！

◆広島のおすすめの物

お好み焼き、牡蠣

◆広島のおすすめスポット

灰ヶ峰から見える呉市内の夜景

◆休日の過ごし方

派遣職員や福島県職員の方といろいろな観光地に行ったり、おいしいものを食べに行ったりしています。



○広島県ではどんな仕事をしていましたか？

広島県土木局河川課では、河川の防災関係システム、許認可技術審査、維持管理計画などを担当していました。外郭団体に外向して都市高速の橋梁関係の仕事を担当したこともあります。

○福島県に赴任しようと思った理由は？

復旧・復興と言うやりがいのある工事に携わりたいと思ったのと同時に、自分にとってここでしかない経験、人とのつながりが財産となる機会だと思い、希望して来ました。

○福島県（いわき市）の良いところ、好きなのところは？

観光地が多い。食べ物・お酒がおいしい。東京に近い。

○大変だったこと、復興を実感したことは？

大変だったと思うことは、あまり感じていません。なぜなら、やりがいのある仕事（現場）を担当させてもらっているし、職場の雰囲気も良く、毎日が充実しています。広島にいては、できない経験をしているから大変だと思わないです。

復興を実感したことは、現場に向かっていく途中に見る海岸沿いに、新たな堤防を見たときです。

海の小話

タラバガニは
カニじゃない!?

カニの王様と言われるタラバガニ。スワイガニやモガニと比べてみると…アレ？脚が1対足りない?? カニの名は付いてるけど、実はヤドカリの仲間。なので、横歩きが一般的なカニですが、カニじゃないので前後にも歩けます。ちょっとショック。

ちなみに「タラバ」は漢字にすると「鱈場」。鱈と生息域が重なることに由来しているそうです。



みなさん、こんにちは。
小名浜港湾建設事務所のヒロキです。
どうぞよろしくお願ひします。

編集後記

初めての広報誌作成は不安でしたが自分が働いている事務所について理解を深める良い機会となりました。

これからも、当広報誌キャラクター「ヒロキくん」と一緒に勉強しながら、分かりやすく情報を発信していきたいと思います。